2020年度

活動報告

川辺復興プロジェクトあるく

2020（令和２）年度　事業報告

【全体事業のまとめ】

被災後3年目を迎え、住み慣れた場所に戻ることができた人が増えて、住民の生活の状況が落ち着きを感じられるようになった。それに伴い、私たちの取り組みの内容も変化してきた。

被災によりコミュニティが一旦バラバラになってしまった。元の場所に住居を再建して戻ってきたとしても、以前のようなお付き合いが戻る人ばかりではない。それは、仮設住宅での暮らしで孤独感や不自由さを強いられてきたことが影響しているようである。

「やっと帰ってきました」「これでやっと参加できます」と初めてイベントに参加される方もあり、本来なら、元のコミュニティに戻れば埋められるはずのつながりは、まだまだ希薄であることを浮き彫りにしているように思う。私たちの活動は、埋められない時間や溝を少しでも浅くできるように、住民のつながりを結い直し、住民の小さな声に耳を傾けることを大切にしている。活動に参加したことをきっかけに生活に潤いが生まれ、生きがいづくりにつながっている。

しかし、コロナウイルス感染拡大によって自粛を余儀なくされ、私たちの開催するイベントを拠り所としていた住民が思うように集うことができない状況になってしまった。

その中においても、近年の気候変動は、自然災害がどこで起きてもおかしくない状況であることは変わりなく、備える活動は継続する必要がある。

よって、イベント開催に向けての活動を停めるわけにはいかないので、企画会議についてはリモートを活用し準備を重ね、イベント開催当日もオンラインを活用しておこなった。

オンラインを併用したイベントにすることで、コロナ禍で明るみになった課題、防災研修には参加しにくい若い世代や会場には参加が難しい方がいることであった。会場での参加が難しい方が家に居ながら参加ができ、多様な環境の方や地区内外の方も参加することができ、参加者の広がりが見えた。

これらを、来年度の活動につなげられるよう工夫しながらできることを継続していきたいと考えている。

2020年度事業報告

2020年（令和2年）4月1日～2021年（令和3年）3月31日

１、事業の成果

今年度当初から、コロナ感染予防対策を考慮し自粛も重なり集まってのイベントは中止せざるを得なかったが、自粛中もオンライン会議を重ね自粛明けから、外のテント下で開催する等工夫して行うことができた。

内容についても、オンラインを活用し対面で同じ会場に参加する人数を制限し、活動の様子を住民のLINEグループに生配信して、多くの人に視聴してもらうことができた。

２、事業実施に関する事項

【１】住民のふれあいや繋がりが生まれ生きがいづくりとなる事業

パンの日（東日本震災機構より）

この活動は、西日本豪雨の被災後、東日本震災機構様より支援をいただいたものであり、被災後３年目を迎えるにあたり３月で終了の予定であった。

しかし、コロナウイルス感染拡大により開催を延期したため３月の最終日のみとなった。

よって、参加した人数は少ないながらも、人と会うことやそこで生まれるコミュニケーションはとても重要な場面となった。

開催にあたっては、感染対策として、並ぶ人と人の間隔をあけてもらい、手洗い、アルコール消毒、マスク装着などの徹底して行った。

開催日	参加人数
4/2	来場者６１人　スタッフ５人

外部講師によるサロン：リラックスヨガ（川辺分館にて）

（内容）

外部講師による、リラックスヨガは、人気でリピーターも多くおり、健康づくりと、参加者同士のコミュニケーションの場となっている。

昨年の１２月から３月まではコロナ感染拡大によって、集まってのイベントができない日々が続き、自粛生活によるストレスもたまっていた。

７月から再開し、慣れてきた9月ころからは動きが変化し、少しずつハードになっていき、心地よい充実した時間を過ごしている。

感染予防対策として定員を少なくする。使用前後に使用する椅子などの消毒、手指の消毒、マスク装着、体温計測などして開催している。

また、使用した部屋のドアノブや椅子などを参加者が自主的に手伝い消毒して解散する等この会を楽しみに大切にしたいと思う気持ちがあらわれている。しかし、12月17日から再び岡山でもコロナ感染拡大が報道されはじめ、高齢者の参加が多いことなど危惧し中止、再び数即した３月は開催の運びとなる。

（参加者の声）

久々なので笑顔がはじけ「身体もほぐれ楽になった」との感想が寄せられた。

（課題）

とても人気のイベントであるため、新規の予約を受けられない問題があり、コロナ感染予防として人数も制限していることもあり課題となっている。早い者勝ちにならないよう工夫が必要である。

開催日	4/6（以降、５月６月は感染拡大により中止）7/6、 7/20、 8/3、 8/17、 8/24 、9/3、 9/7 9/28、 10/8、 10/12、 10/19、 11/9、11/16、11/30、12/3、12/7、12/14 、12/21 １月、２月コロナ感染拡大により中止、3/1、3/8，3/15，3/22，	参加人数 延べ 287人
参加 人数	8，10，13，16，12，11，7，11，13，12，13，12，10，11，12，13，13，8，16，14，13，14、11，14	スタッフ 45人

外部講師によるサロン：調整ヨガ　　（川辺分館にて）

（内容）
　リラックスヨガに参加されている皆さんは継続参加の方が多く、年齢層も比較的高い状況にあった。
　若い年齢層を対象とした内容を講師の先生と話し合い「調整ヨガ」として、特定のテーマ、部分を調整する内容で月1回を目安に開催することとした。子育て世代の参加が増えて、お子さん連れでの参加もあり雰囲気も若返り楽しく開催できている。
　また、他地区の参加者もあり、地区を越えて楽しい時間を共有できる場としていきたい。初心者の参加が可能になるなど有効であると考える。
（参加者の声）
「久しぶりのヨガでリフレッシュでき、大満足です」
「人数が少ない分それぞれの体に合わせ無理のない動きで継続して参加したい」とうれしい反応があった。

開催日	内容	参加人数	スタッフ数
9/10	骨盤調整ヨガ	10	3
10/22	肩こり軽減ヨガの会（体の循環ヨガ）	9	2
11/12	骨盤調整ヨガ	6	2
12/10	体の循環ヨガ	2	2
3/11	体の循環ヨガ	8	2
	合計	35	11

外部講師によるサロン：暮らしとお金の学び舎

参加者は、西日本豪雨災害において被災し、金銭的にも暮らし方についても見直しを迫られている人も多くいたと思われる。そんな中においてお金にまつわる悩みや相談を被災直後からボランティアとして活動されていた、ファイナンシャルプランナーによる講座を始めることになった。

身近なお金にまつわる相談を受けることから始まり、参加者の課題は各家庭で違いはあるが「良い暮らし」を目指していることは一致していたようで、お互いの話を聞きながら学び合うことができているようである。

参加者の雰囲気も和気あいあいとしていて大好評となっている。

また、中高校生を持つ教育資金講座では奨学金や入学準備均等についての身近な話で悩みを聞いてもらえる場所ともなっているようである。

キッズマネー講座では、親子での参加で先ずはお金についての勉強をして残りの時間は貯金箱をつくって楽しくお金について学ぶ機会となったようである。

ライフプランニングを学ぶ機会としてコース講座を開催し暮らしとお金について充実した時間となっているようである。

日時	内容	参加人数	スタッフ数
7/29	くらしとお金の学び舎	９人	２人
8/17	中学生、高校生のお母さんのための教育資金講座	６人	２人
8/19	キッズマネー講座	子ども11人、親7人、	２人
9/15	くらしとお金の学ぶ舎	９人	２人
10/20	くらしとお金の学び舎	９人	２人
11/17	くらしとお金の学び舎	９人	２人
12/15	くらしとお金の学び舎	６人	２人
	合計	子ども１１人　大人　６０人	１４人

つながるサロン

《開催の背景》

コロナ感染対策に伴い「あるく」のイベント活動も自粛していた。少しずつ落ち着きを取り戻した6月中旬からスタッカんでも顔を合わせてミーティングする機会を得た。その中で出た意見「久しぶりに家族とは別の人にあって話ができたことはとても嬉しかった。
住民の皆さんも同じではないか？！」「〇〇はイベントはないけれど空いてるよ」「ふらっとお散歩の途中に寄ってみて？」のような緩い感じで私たちの活動も再開できないか？から始めた取り組みであった。

《開催の成果》

結果は、たくさんの来訪者があったわけではないが、立ち寄られた方は「自粛期間中の様子や現状を共有しお話をして帰られていました。
10月からは、小物づくりの会を月2回にして予約不要としての開催にしたことにより一旦「つながるサロン」は休止することにした。

《課題》
コロナ禍におけるイベント開催について、今後の感染者数増加となった場合の対応や、感染対策の徹底をして開催できることなど整理しておかなければならない。

開催日	参加人数	スタッフ数
7/1	３人	２人
7/22	４人	２人
8/5	４人	２人
8/26	４人	２人
9/9	２人	２人
9/23	５人	２人
合計	２２人	１２人

小物づくりの会

ジーンズの古着をリメイクして小物をつくるイベントを計画。災害後、支援として集まった古着を使って、生地選びからデザインを考えて「どんなのしようかな？」と考える時が楽しくそれぞれ工夫し楽しい時間を過ごしそれぞれ作品をつくることができた。

第２弾として、参加したらすぐつくることができるようにしておこうと、小物づくりの会に来られているメンバーがリーダーとなって身近な作品としてレッスンバックの「キットづくり」をはじめた。12月からまた、コロナ感染拡大が危惧されて休憩したが、３月は１回だけであったが、「被災して無くなってしまったA４サイズのバックが欲しかったので作りたい」「ミシンが無くなったので参加したい」「レッスンバックのキット」に参加して作りたい。と作品を作る楽しみを思い出した！と嬉しい声をもらった。「いずれバザーに出すことができるよう作りためられるといいなぁ！」と各自で楽しむ人もいるが、感染対策ができていれば「集まっておしゃべりしながら作りたいよなぁ！」と感想があり今後も継続していきたい。

開催日	内容	参加人数	スタッフ数
9/8	ジーンズでリメイク ジーパンや着物をリメイクしてバックをつくろう。生地から自分で作る。	7人	2人
10/14	ジーンズでリメイク 集まって作業をする（着物を端切れにするなど）おしゃべりをすることが楽しく集まっている。	6人	2人
10/27	ジーンズでリメイク 新規の参加があり「何をつくろうかろ思いを巡らせている」楽しい時間を過ごすことができた。	2人	2人
11/11	レッスンバックをつくろう 初心者でも参加できる内容として参加者が提案して、端切れを組み合わせてつくることになり、裁断と見本品を次回までにつくることになった。	4人	2人
11/25	参加者からの提案で、ジーンズのリメイクを誰でも楽しめるように端切れも使ってレッスンバックをつくろうの準備を始める	２人	２人
12/9	レッスンバックのキットづくり	３人	１人
3/9	レッスンバックを作ろう！	３人	２人
	合計	２７人	13人

レッスン
バックの
キットづくり

外部講師によるサロン：アロマ体験教室

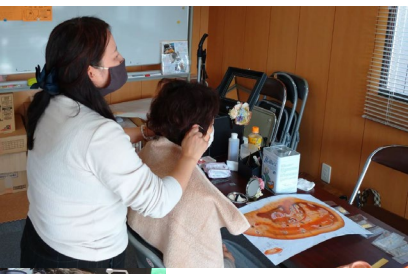
この事業は、被災によって今まで経験したことのない出来事に翻弄された日常に、災害後支援として、ホッと一息できる空間であり癒される場となっている。支援者はボランティアとして癒し効果のあるハンドマッサージやアロマオイルを使った癒しグッズをつくるコーナーなどを継続して開催。

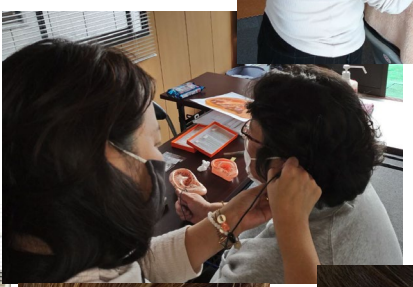
コロナ感染拡大が危惧された年度初めは自粛していたが、夏から再開し集いの場となり、夏休みには親子で参加ができるように、アロマ石鹸づくりや虫よけスプレーづくりを計画して子どもも楽しい時間となった。

冬に向かう前に「手洗いの励行によって手荒れが気になる」の声に対して、アロマハンドジェルをつくるコーナーとなり季節に合わせた内容となっている。

耳つぼマッサージの施術の後、その人の気になるツボにジュエリーシールを貼ると効果が持続されること、ちょっとしたアクセサリーとなるなどリピーターも多くあり楽しみに参加されている。１２月からは再度コロナ感染が拡大したこともあり中止。再開は検討中。

開催日	内容	参加人数	スタッフ
8/20	一部　虫よけアロマスプレーをつくろう 二部　アロマ石鹸をつくろう	７人 ８人	２人
9/17	マスク用アロマスプレーをつくろう	11人	２人
10/15	アロマハンドジェルをつくろう	15人	２人
1028	耳つぼマッサージ＆耳つぼジュエリー 薬膳教室	８人 ５人	２人
11/19	アロマハンドジェルをつくろう	８人	２人
11/27	耳つぼマッサージ＆ジュエリー	６人	２人
	１２月、１月、２月、３月中止		
		合計　６８人	１２人





外部講師によるサロン：お抹茶の会

・昨年度から外部支援で開催している本格的な季節を感じられる和菓子と美味しいお抹茶を提供してもらっている。
　会場は、久しぶりのカフェのような雰囲気で楽しむことができている。

• コロナ対策で密にならないよう調整し、検温・手指の消毒をして対策をしながらの開催となっている。

• 開催する部屋が満席になると自主的に外で並んで待ち、それを見た中の人は自主的に密にならないよう早めに退席されるなど、お互いに配慮しながらも一時ほっとできる楽しい時間を過ごすことができている。

開催日	**8/29　、9/26　、10/17、12/12**	**スタッフ人数**
参加人数	20人　　23人　　23人　　23人	8人

外部講師によるサロン：多肉植物の寄せ植え

• 外でできるサロンなので、密にならないようにスペースを取って再開した。自粛期間の5月は開催をしなかったので6月の再開は楽しみにされていていたようである。

• 予約制にしているがふらっと立ち寄って参加される方も多くいて、お部屋の中でも観賞できる植物なので癒しのアイテムになっている。

• リピーターも多くいて植物を育てることが生きがいの一つになっているようである。

【　参加者の声】
「やっと帰ってこられて、家に飾るものが作れて楽しい」

開催日	参加人数	スタッフ数
4/11	１０人	２人
6/6	１０人	２人
7/5	７人	２人
8/8	１０人	２人
9/12	１２人	２人
10/18	９人	２人
11/29	９人	２人
12/20	１０人	３人
3/28	１０人	２人
合計	８７人	１８人

栄養改善協議会共催　　料理教室

コロナ禍によって自粛期間中必然的に家で食事を作ることを強いられている。

そんな中、この会は目的としてマンネリ化した食生活の改善と、楽しく集まって料理をつくることで心身ともにリフレッシュできることであった。

参加した人たちは、栄養改善協議会の皆さんの活動の一つ「生涯骨太クッキングの冊子」の説明があり食生活を見直す機会となった。

開催日	内容	参加人数
10/22	鶏の煮込みチリソース もやしの中華和え サツマイモのスープ	参加者　　8人 栄養改善　3人 あるくスタッフ　１人

大人のための木工教室

自粛期間中はお休みして、昨年度から継続で未完成の方のみ、外での開催ということで再開した。参加者は「久しぶりに息抜きできた！完成してよかった！」と人と会えたことを喜び、自分の作った表札を掲げることができる喜びを感じておられるようであった。

生きがい作りの第2弾として大工さんによる木工教室で、自分で作る楽しさと自分で作ったものを生活に取り入れることができる内容で、親子連れから色々な世代が参加して、一枚の板から角材からサイズを測りのこぎりで切り釘を打ち形にしていく。大変だけど楽しい時間を過ごし作品を仕上げていった半日で仕上げるにはハードであるが家に持ち帰っても道具が無いこともあり最後まで仕上げて持ち帰っていった。

第２弾も希望者がいたため同じ棚をつくった。やはり予定の時間をオーバーしての完成となり時間配分は考慮する必要があると思われる。が、ものづくりは集中することができるので何らかの形でできるといいなと思う。

開催日	内容	参加人数	スタッフ
6/14	表札づくり	７人	３人
7/12	表札づくり	４人	３人
9/20	大工さんの木工教室　棚づくり	17人	２人
10/25	大工さんの木工教室　棚づくり２	13人	２人
	参加者数合計　　表札づくり１１人　木工教室３０人		１０人

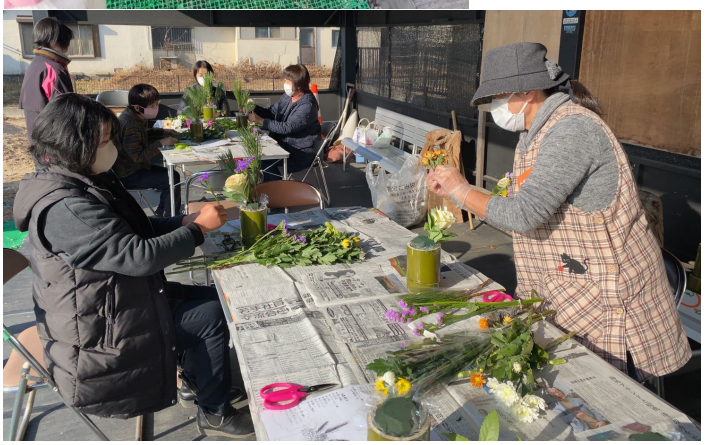
《参加者の声》

・外でできるイベントいいなぁ。
・ものをつくることで集中できて楽しい。
・子どもと一緒に参加できて楽しかった。

お正月花を飾ろう

コロナ禍で開催を慎重に考慮した結果。外で、トラステント下で行った。
参加者７人、スタッフ３人
「昨年は、本を見ながら悪戦苦闘したが、今回は指導してくれる人がいて楽しく活けることができて良かった」「同じ花材でもみんな違う活け方で変わる面白さも味わうことができた」「こんなアレンジがまたできたらいいのになぁ！」とか、被災後やっと元の場所に帰ることができた喜びを感じられた様子であった。

スタッフで
手分けして
竹を切り出し、
器の長さに切
り分け
水で汚れを洗
いバーナーで
焼く作業をし
て器の完成



12/13
「お正月花を活けよう」の準備
竹を取りに行き、節を残し器となるように竹を切り表面をバーナーで焼き、たわしできれいに汚れを落とす作業で完成。

【２】　防災・減災をすすめる事業

防災を身近に感じ、楽しく会話をしたり、お茶を飲んだりしながら防災を我が事として考える場として「防災カフェ」を毎月開催した。参加者同士がともに防災に関する知識を身に付け、楽しく集うことで互いに顔の見える関係づくりの一端を担っている。

テーマは小規模な勉強会として、内容はできるだけ簡単にし、参加者にとって身近なことを取り入れた。

10月頃からはコロナ感染対策のため、3密を回避して開催したが、1月、2月は倉敷市内の感染者増加に伴い、開催を中止した。

①　防災カフェ（毎月１回）

開催日	内容	参加人数	スタッフ参加人数
5/31	オンLINEでさんぽ　　（生配信　約200回視聴） (香川大学　磯打千雅子)LINEで生配信	会場　8人	3人
6/23	簡易トイレをつくろう　　（生配信　約100回視聴） (香川大学　磯打千雅子)	会場　8人	3人
7/15	車中泊の極意　　（生配信　約200回視聴） (香川大学　磯打千雅子)	会場　8人	5人
8/7	避難所について聞いてみよう！ （倉敷市防災危機管理室　渡邉直樹）	6人	4人
9/24	要配慮者の避難について （ぶどうの家　津田由起子）	８人	3人
10/13	安否確認グッズの使い方について (香川大学　磯打千雅子) 「黄色いタスキ」どこでも結べるので薄く「無事です」と入れよう	３人	4人
11/24	地震・安否グッズを使った避難訓練について （香川大学　磯打千雅子）	５人	２人
12/11	クロスロードゲームで災害時の動きを考えよう （ピースウィンズ　ジャパン富樫、中村）	６人	２人
１月 ２月	コロナ感染拡大により中止		
3/23	LINEを使ってみよう 災害後スマートフォンに移行した人が多く、情報収集や災害時の連絡方法として活用できるように予定	5人	４人
	参加合計	４８人	３０人

○　防災ブック（防災おやこ手帳の作成）
被災後行った「パパママアンケート」の内容や防災カフェで出た意見などをまとめたものを制作した。

生配信【オンLINEで！さんぽ】

～ちょっと試してみたい防災対策～

LINE 中継を見ながら疑似体験？！気軽に試したくなるような防災対策お伝えします！

日頃の散歩で
町を知るヒントが
あるよ♪

たのしく簡単！
アウトドアで
美味しい防災食！

車でキャンプ♡
（車中泊）
なに準備する！？

非常持ち出し品
こんなのあったら
便利！（紹介するよ）

日にち：5月31日（日）9時から配信スタート！

9：00～あるくより：出発前の一言と本日のスケジュール
9：10～川辺小より：小学校の取り組み一部紹介
9：40～源福寺に向けて散歩しながら危険箇所の確認の仕方をお伝えします
10：00～源福寺より：川辺の歴史に触れてみよう！
水害の歴史や古い地図から分かること
10：20～あるくに向けて散歩
あるくより：あるお家の持ち出し袋チェック
アウトドア防災食
車中泊のい・ろ・は
12：00頃終了予定です
※生中継の為、スケジュールや内容が一部変更になる場合があります（時間も目安です）

【参加方法】 LINE

① 9時LINEグループ「川辺地区みんなの会」を開く。
② URL(リンク)をタッチ!
③ 生配信の様子を見ることができる。
④ お家から参加して、感想や質問をLINEでコメントしてください。

☆LINEグループ「川辺地区みんなの会」に参加されていない方はご連絡ください。

《連絡・お問い合わせ先》
080-5752-0111
（午前9時から13時まで）
川辺復興プロジェクトあるく

主催：川辺復興プロジェクトあるく
防災カフェ（防災遠足）
監修：香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　地域強靭化研究センター
特任准教授　磯打　千雅子
《令和2年度岡山備中県民局提案型協働事業》

5/31　オンLINEさんぽ

防災カフェとして、防災さんぽを予定していたが、コロナ感染拡大により開催内容をオンラインで「川辺地区みんなの会」のLINEに生配信することに変更する。
雨の中、実際にまち歩きをして、水害の場合の危険が日常の生活にあることを確認した。初めての試みである為音声がうまく伝わらず残念な面もあったが、コロナ禍でも活動をやめることなく開催できたことが今後の計画にも参考になった。

増水した道路をあるく場合、道端の電柱を目印にすると「このように傾斜があり溝がわからなくなり段差があると危険」「災害時子どもと一緒の場合道路の中ほどにして」と、危険個所を説明してもらって歩いた。

磯打先生のメスティン調理のすすめ「無洗米と缶詰、乾燥野菜など入れて、固形燃料で簡単調理」アウトドア避難にバッチリ。

初めての試みで、NHKの取材も受けながらですが、楽しみながら開催できた。
「ごはんまだかな・・」

防災カフェの様子

7/15
車中泊の極意

6/23
簡易トイレをつくろう

10/13
安否グッズ検討して避難を考える

数点市販の安否グッズを取り寄せ、手に取りやすい、目的にあうものを話し合って「黄色いタスキ」に決定した。地区の主要な団体とも協力で年度内に配布予定。

11/24
地震・安否グッズを使った避難訓練について

12/11
クロスロードゲーム(二者択一)で防災を考える

3/23　防災カフェ「LINEを使ってみよう！」

（開催内容）　1，友達追加をしてみよう
　　２，メッセージや写真を送ってみる
　　３，メッセージや写真を「送信取り消し」してみよう
　　４，絵文字やスタンプを使ってみよう

（参加動機）
「来年度町内会の会長をするので、LINEを使えるようにしたい」
「スマホ教室に行ってもLINEの事は教えてもらえないし、なかなかわからないことを聞ける雰囲気でもないから・・・」
「遠くにいる孫とLINEでメッセージや写真を交換したい」
「家族に使い方を質問すると、操作してくれて自分でやらないからできるようにならない」

（開催の経緯と展望）
西日本豪雨災害による被災後、固定電話を使えない状態になり、町内会の繋がりや連絡網も携帯電話に変更し、その上、多くの人がガラケーの携帯電話をスマートフォンに移行している。しかし、便利な情報ツールも使いこなすことができないという状況にある。
よって、参加者が、できるだけ顔の見える関係の中で「失敗しても大丈夫」「とにかく触って慣れよう」と思えるように継続していきたい。
そして、いざというときの情報をLINEで発信して、早めの非難行動に移れるような仕組みづくりにつなげられるようにしたい。

（感想）
「知りたいことが何個か理解できて、収穫！と思えた。特にメッセージを取り消しする方法が理解でき安心して使ってみよう！と思っている」
「やはり、失敗を恐れず触ってみないと慣れないね」
「また、よろしくお願いします！」
と、ほぼマンツーマンになるくらいの人数でできたので
和気あいあいに楽しく活動できた。

参加人数４人（６５歳以上）
スタッフ５人

防災おやこ手帳の作成と配布の準備作業

被災後、真備町内の子どもを持つ親世代を対象にLINEを使ったアンケートを行い、「水害に遭っていない人に被災経験を基にて伝えたいこと」を尋ねたところ「子どもたちをきちんと守って欲しい」「早めに避難して欲しい」といった強い想いが浮かび上がった。

被災経験やその時の想いや反省などを形にして，未災地の人たちに伝えたい一心で「マイ避難先」を考えよう！、「避難スイッチ」を決めておこう！といった避難のヒントなどを盛り込んだ〝防災おやこ手帳“を作成した。

被災した自分たちの経験に基づいて実践してきたイベントや防災の仕組みづくりを伝えることは、災害を自分のこととして考えるきっかけとなり、それぞれの防災意識の向上につながることが期待されている。

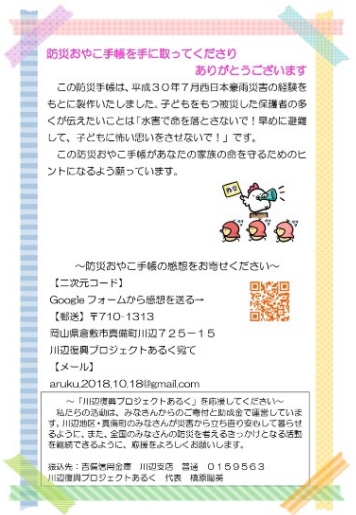
そして、この「防災おやこ手帳」を通して、講演の依頼があり意欲的に取り組んでおり、「おやこ手帳」と題しているがわかりやすく好評であり年代に関係なく地域での防災の取り組みや講演会にも依頼が増えているので、今後も内容を検討していきたいと考えている。

「防災おやこ手帳」については、未災地に経験を伝え、家族で「避難先の確認」「避難スイッチのタイミング」「難準備品」などについて話し合うきっかけにしてもらいたいと考えて作成した。必要とされる方に郵送し、県内外の様々な地域の防災研修や子どもたちへの防災教育などで教材として活用していただいている。ポイントを押さえ、ページ数が少ないため手に取りやすいようで、問い合わせや申し込みも多くあった。今後の防災減災に役立つことを期待している。

「防災おやこ手帳を手に取っていただいた皆様に思いを伝えられるようにあいさつ文を挟み込み郵送に備える作業を定期的に行っている。

岡山県内の公民館や、学校の先生などから研修や学習の場面で使いたいと問い合わせがあり送っている。

また、メディアにも取り上げられたことで、県外からも問い合わせや申し込みがある。


防災おやこ手帳を手に取ってくださり
ありがとうございます

この防災手帳は、平成３０年７月西日本豪雨災害の経験をもとに製作いたしました。子どもをもつ被災した保護者の多くが伝えたいことは「水害で命を落とさないで！早めに避難して、子どもに怖い思いをさせないで！」です。

この防災おやこ手帳があなたの家族の命を守るためのヒントになるよう願っています。

～防災おやこ手帳の感想をお寄せください～

【二次元コード】
Google フォームから感想を送る→
【郵送】〒710-1313
岡山県倉敷市真備町川辺７２５－１５
川辺復興プロジェクトあるく宛て
【メール】
aruku.2018.10.18@gmail.com

～「川辺復興プロジェクトあるく」を応援してください～
私たちの活動は、みなさんからのご寄付と助成金で運営しています。川辺地区・真備町のみなさんが災害から立ち直り安心して暮らせるように、また、全国のみなさんの防災を考えるきっかけとなる活動を継続できるように、応援をよろしくお願いします。

振込先：西日本銀行倉敷　川辺支店　普通　0159563
川辺復興プロジェクトあるく　代表　横原陽菜

②川辺みらいミーティング

川辺みらいミーティングは、「目指そう！逃げ遅れ〝ゼロ”の川辺地区」をスローガンに掲げ、被災後のまちづくりを住民同士が自分のできることを語り合い、助け合いながら地域の再生にどうつなげていくかを活動にする場として開催している。

令和２年度は４回実施し、避難のタイミングについて参加者で考えたり、分散避難に関するアンケートを行ったっ結果の報告会をコロナ禍であることを考慮して会場とリモートを組み合わせて開催することができた。。

「防災まち歩き」では、香川大学　磯打千雅子先生と香川大学の学生さんがファシリテーターとなって、大人や子どもがまち歩きとマップ作りを行うことができた。

そして、第６回では「小学生&大人合同　防災まち歩き報告会」コロナ感染拡大禍によって子どもたちは事前に録画してもらい、当日はDVD映像での報告披露とした。大人も会場は発表者とスタッフの少人数で開催し、YouTubeで生配信としての開催とした。また、子どもたちの映像を配信することから、事前に予約された限られたが視聴できるようにするなど対策を考慮して行った。

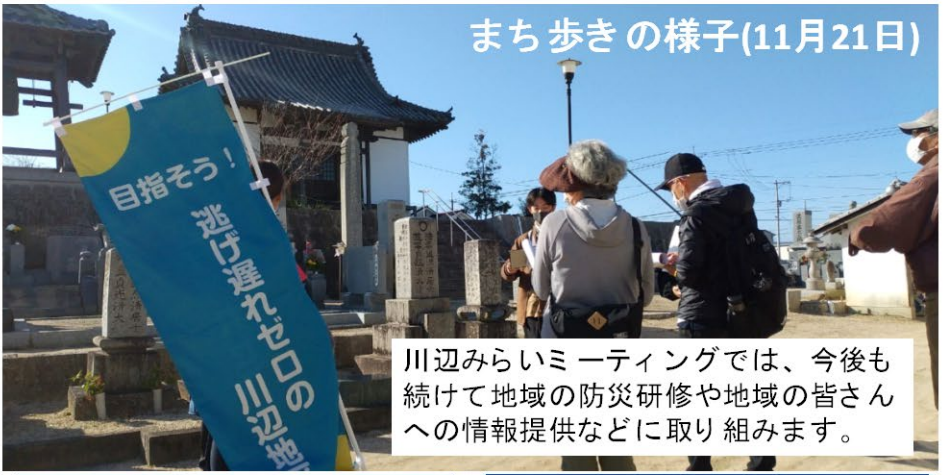
開催日	内容	参加人数
7/19	第４回「考えよう！マイ避難先 アンケート結果報告会}	会場参加人数 42人 YouTube 視聴数 約300回以上
11/21	第４回「目指せ！逃げ遅れゼロの川辺地区」 防災まち歩き 講師、ファシリテーター：香川大学　磯打千雅子 香川大学学生 11/2　川辺小学校５年生　大人に先立ち開催	４５人
1/16	第６回「防災まち歩き。マップ作り 小学校５年生（DVD参加） と　大人合同発表会」 講師、ファシリテーター：香川大学　磯打千雅子 香川大学学生	会場参加人数 １０人 ZOOM参加 ９人 YouTube 視聴数 約200回以上

危険箇所の確認、マップづくり

第5 回川辺みらいミ ーティ ングの実施結果

楽しく 学ぶ“防災まち 歩き ”報告

2020年11月21日開催(@真備町川辺地区)



【第1部】13:30～15:00

川辺のまちを散策&
危険個所チェックをしました

参加総勢約40人程度が7つのグループに分かれて散策しました。川辺のことを学ばれた香川大学の学生さんをリーダーにして危険場所の説明を受けながらを写真に収めて情報を集めました。(LINE利用)

【第2部】15:10～16:30

集めた情報をみんなで共有
防災まち歩きマップを作りました

学生さんによる防災クイズの後は、まち歩きで得られた写真情報をもとに地域の防災マップを作りました。今回は水害だけではなく地震での危険場所も含め、参加者は自宅周辺の避難注意場所を学びました。

【 川辺小学校体育館で防災マップ作り 】

【 東西南北エリアに分けて作ったマップ 】

主催: 川辺みらいミ ーティ ング実行委員会
共催: 川辺地区まちづくり推進協議会、川辺復興プロジェクト あるく 、ピースウィンズ・ジャパン、国交省・高梁川小田川緊急治水対策河川事務所、特定非営利活動法人 みんなの集落研究所、後援: 倉敷市 防災危機管理室

（成果）「まち歩き」を、日々の生活の中での散歩や健康づくりのウォーキングなどに活かすことができる。

（参加者の声）「自分の住まいの周辺を知ることで、いざというときの身の安全を確保するヒントになる」など、参加者の声もあった。

（展望）

今後もこのような活動を、継続していきたい。

【 防災まち歩き・防災マップ】　第6回川辺みらいミーティング報告

（2021年1月16日開催）

川辺分館からオンラインで

《 川辺小学校5年生（DVD出演）
川辺住民　合同発表報告会》

《 令和2年度　岡山県備中県民局提案型協働事業》

川辺みらいミーティングは川辺住民の有志と川辺小学校をはじめとする関係諸団体の皆さんと一緒に「逃げ遅れゼロの川辺地区」を目指して話し合いや活動をしています。今回は、香川大学　創造工学部　防災・危機管理コースの磯打先生と学生さんが講師となり、11/2川辺小学校5年生の皆さん、11/21川辺地区の皆さんで防災まち歩きをしました。

小学生の皆さんと大人がまち歩きのマップを基にした成果を発表する会を、コロナ感染拡大によってオンラインのみでの報告会としました。会場では最少人数での開催として、5年生はDVDでの報告、学生さんもオンラインでの参加でした。

【 開催内容】
- 「すごいぞ川辺のご先祖様」紙芝居
- 大人の成果発表(東西南北の4コース)各代表の方
- 子どもたちの成果発表（DVDの映像にて）
- 香川大学学生さんから「川辺のクイズ」
- 磯打千雅子先生から総評
- 川辺小学校本多卓郎校長先生から総評

約1時間30分の取り組みでした。
会場での開催スタッフ10人(発表者4人含む)
Zoomでの参加9人(学生さん3人含む)
YouTube視聴(23日現在117回)

この防災まち歩きは、災害を経験し復興していく過程や日常を記録することにつながり、子どもと大人が同じ目線で見られたこと、コロナ禍においても工夫してこのような成果発表ができたこと素晴らしい！とお話しいただきました。
(磯打千雅子先生より)

子どもたちは、災害後多くの皆さんから支援をいただき感謝の気持ちを形にしたいと頑張ってきました。今回の発表も地域の皆様に伝いたい！と何度もマップを作り替え発表の練習を繰り返しDVDの撮影に臨みました。そして、これからも毎年5年生が学びつなぐことで災害の歴史や気づきを未来の人や未災地に伝えていくことができると思っています。
(川辺小学校校長本多卓郎先生より)

準備に集まれず、なかなか打ち合わせができない中、それぞれのコースの発表を受けていただいて感謝しています。それぞれの発表者の皆さんは、再度歩いたり資料を集めたり発表の内容を考えていただきました。本当にお疲れさまでした。まち歩きをしたコースの紹介や神楽土手の歴史は勿論のこと、危険箇所や災害時に役立つものやチェックポイント「水害の歴史を忘れないこと」「普段から、身の回りの危険箇所をチェックしておく」を丁寧に説明していただきました。皆さんも！たまにはご自宅の近くを歩いてみましょう！

（成果）

コロナ禍においても、活動が制限される中、子どもたちは事前に発表をDVDに収録しての参加でオンラインでの報告会というように感染対策を取りながら工夫して開催することができた。

子どもたちの発表には、新鮮な気づきをわかりやすく、そしてマスク装着でも発表者が手を挙げるなど工夫されていた。

大人は災害を経験したことを踏まえて、自分事とした防災の観点を伝える内容となった。

（展望）

このような「まち歩き、マップ作り、発表会」を毎年開催できる取り組みを継続することで地域を知り防災の意識向上を目指していきたい。

③　安否確認のルールづくり

「目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区」を目指した事業。

（取組内容）

今年度は辺地区全戸に配布することを目標に、色々な団体と協力して活動している。まずは、川辺地区まちづくり推進協議会を通じて町内会の代表に配布してもらうための準備として、事業に賛同する各種団体と、あるくスタッフで、黄色いタスキとチラシを袋に詰める作業を行った。

（課題）

町内会がない所や、アパートなどにどう届けるか。取り組みを広げられるかが課題である。

（展望）

来年度、この「黄色いタスキ」を使って防災訓練をする予定である。

いざというときに、「黄色いタスキ」が掲げていないところに声掛けをするきっかけにしてほしい。

黄色いタスキ大作戦配布チラシ

令和２年度岡山県備中県民局提案型協働事業

目指そう！逃げ遅れゼロの川辺地区

お隣さんは無事かな？

黄色いタスキ大作戦

平成 30 年 7 月西日本豪雨の際に、**「お隣さんが無事なのか心配だった。」「避難したかどうかわからず、声掛けに時間がかかった。」**などの声をたくさん聞きました。そこで、**「我が家は、避難しました！無事です！」**と一目見て分かる安否確認グッズを川辺地区全域に配布することにしました。

川辺地区の『黄色いタスキ』ルール

1. 「無事です」のタスキが、「避難した」のサイン。
2. 平時は玄関などの目につく場所や非常時持ち出しバッグに結んで保管。
3. 結びやすく、目立つ色。ご近所さんはもちろん、町内会長さんや自主防災リーダーさんなどが安否確認をする際にも役立つ！

※水害時→避難する前に、玄関付近の目立つところに結ぶ
※地震時→けが人もなく、家族全員が無事であれば、玄関付近の目立つところに結ぶ

ドアノブがある場合はドアノブに、ない場合は、玄関付近の目立つところに結びつける。

緊急時タスキが玄関先にないお宅に声掛けをお願いします。

黄色いタスキがない方は、何らかの事情で困っている場合があります。
警戒レベル４、もしくは地震の余震がおさまったら迷わず「大丈夫ですか？お手伝いできることありますか？」と、声掛けをお願いします。

川辺地区の住民みんなで取り組もう！

令和3年度には、この「黄色いタスキ」を使った防災訓練をします。ぜひご参加ください。

まちづくり推進協議会・環境衛生協議会・老人クラブ・愛育委員会・民生委員・児童委員 地区社会福祉協議会・栄養改善協議会・川辺小学校 PTA・川辺幼稚園 PTA・川辺分館管理組合 倉敷消防団真備第１分団第３部（川辺消防団）・婦人会・川辺みらいミーティング実行委員会

監修：香川大学 磯打千雅子先生 / 発起人・事務局：川辺復興プロジェクトあるく / 問い合わせ先：080-5752-0111

④キッズ防災事業

開催日	内容	スタッフ
10/31	参加人数　２９人 ハロウィンだよ！楽しく防災やってみよう！ 「今回のテーマは地震だよ！」 講師：特定非営利活動法人　ピースウィンズ・ジャパン	参加人数 ６人

（開催理由）
豪雨災害の中で子どもたちが「早く逃げよう」と親や家族の避難スイッチを押したことで、早めの非難行動につながったケースが多くみられた。このように、子どもたちの学びが家族・地域の防災意識の向上につながると考えられることから、年に２回程度、子どもたちに対して「楽しさ」を盛り込んだイベントを実施している。

「問題です」
「ここは震度○が起こるといわれているでしょう？」

それぞれのグループに分かれて話し合っている様子。

開催日	内容	約３５人
11/2	川辺小学校５年生　防災まち歩きとマップづくり 講師：香川大学　磯打千雅子 香川大学　学生（ファシリテーター）	

川辺小学生が授業の一環で自分の住む地域の歴史や、危険箇所を見て歩き、防災マップを作る活動を行った。
子どもたちにとっては自分の町を知る良い機会となった。

⑤「防災おやこ手帳」の作成

西日本豪雨の被災当時の、実際の被災体験や子育て世代のお父さん・お母さんを対象に行ったアンケートに寄せられた意見や経験内容を載せた冊子にした。
内容には、被災当時のエピソードに加え、マイ避難先、避難のタイミング、避難準備品は何？とページ数を少なくして家族で話し合うきっかけになるように身近に手に取りやすいものを制作した。（約１万部発行）

１０月下旬 順次	「防災おやこ手帳」の配布 真備地区の、保育園、幼稚園、小学校を通じて子どものいる全世帯に配布し避難スイッチなどについて家族で話し合う機会となった。
12/9 約２０人	「防災おやこ手帳」の中学生での活用 真備東中学校の総合学習の時間で「防災おやこ手帳」を活用した防災学習をした。 学習の一環として、中学生が地域のスーパーの前で手帳の内容を説明しながら来店者に手渡すという防災啓発活動を実施した。

⑥　防災減災に向けての啓発活動

防災おやこ手帳
の配布をしている様子。

防災士の会の「笑顔プロジェクト」をはじめ「国土交通省小田川河川事務所」「ピースウィンズ・ジャパン」の皆さんとブースを分けて展示。

「災害時避難についてのアンケートご協力のお願い」

川辺地区の皆様、平成30年7月豪雨から2年目の夏を迎えようとしております。河川や堤防の復旧工事も完成にはあと3年かかる予定ですが、なかなか収束の見えないコロナに私たちの生活も大きく影響を受けています。
しかし、防災への取り組みは少しづつでも前に向けて活動していきたく皆様のご協力をお願いいたします。

川辺みらいミーティング実行委員会からのご挨拶とお願い

5月17日に予定していた第4回川辺みらいミーティングは大変残念ながら延期とさせていただきました。今回アンケートという形でみなさまのお考えを確認させていただき、その内容を踏まえて延期となった第4回みらいミーティングを、より充実したものにしていきたいと考えております。

皆様のご協力をいただき、少しづつでも災害に強い真備町に近づいていきたく何卒よろしくお願いいたします。

第4回川辺みらいミーティング実行委員長　松本　竜己

川辺地区まちづくり推進協議会からのご挨拶とお願い

あの時誰しもあそこまで水がくるとは予想していませんでした。
昨年は台風19号が各地に甚大な被害をもたらし、最近の異常気象は何処でいつ起きてもおかしくない状況にあります。だからこそ、日頃から災害に備えて準備をしておく必要があることを私たちは学びました。
まちづくりが昨年から取り組んでいる「町内会どうなっている会」の話し合いの中でも防災に備える必要があるとの声が多く寄せられました。
一人ひとりの防災意識を高めるための「みらいミーティング」ですが、コロナの影響で延期することになりました。
皆様にアンケートにお答えいただくことにより今後のまちづくりの防災を考えるうえでの参考にさせて頂き、そしてこれが災害に強いまちづくりに繋がっていくことを期待しています。ご協力よろしくお願いします

アンケート記入の際の注意点

- 回答用紙は、同封の返信用封筒をご使用頂き、**令和2年5月29日（金）まで**にご投函下さい。
- 質問には選択項目の中から1つ選択するものと、複数選択が可能なものがあります。質問文に示した回答方法に従ってご回答ください。
- ご回答の際は、直接、回答用紙のあてはまるものに ○印をつけてください。

こちらからもご回答いただけます。

次回（第4回）川辺みらいミーティングのテーマ

避難スイッチオン（前回テーマ）の次は？

次回（第4回）のテーマ、
どこへ？どうやって？逃げる？
“具体的な避難行動の確認”

（0）各自ハザードマップなどで道路建物確認
（可能な範囲で）
（1）今回のアンケートご回答
（2）実行委員会でアンケート結果集計
（3）次回（第4回）川辺みらいミーティングで**共有**

他の方の意見も参考にしてみてください

今、警戒レベル3が発令されたら？

- 情報収集？
- 避難準備？
- 近所声かけ？
- 自分だけで逃げられない？

- 子供がいる家族
- ペットがいる家族
- 高齢者のみの家族
- 要支援者がいる家族
- 要介護者がいる家族

どうやって？

- 何時に移動開始？
- 移動手段は？
- 誰と避難？
- どのルート？

どこへ？

- 真備町内なら？
- 真備町外なら？
- 車？徒歩？
- 誰と？

＊コロナ大丈夫？

回答用紙(1/2)

アンケートご回答お願い（どこへ逃げる？、どうやって逃げる？）

1. ご回答いただく方ご本人について

1）あなたの年代は？
○10代　○20代　○30代　○40代　○50代　○60代　○70代以上

2）あなたを含めて同居家族は何人ですか？
○1人　○2人　○3-4人　○5人以上　○その他[　　]

3）同居家族（あなたを含め）の中に介護・解除が必要な方はいますか。
（複数選択可）
□いいえ　□乳幼児あり　□介護・介助必要な家族がいる

4）ペットの有無は？（複数選択可能）
□ペット無し　□ペット有（小動物）　□ペット有（大型犬など）

2. 西日本豪雨災害当時のことについてお聞きします。

1）平成30年7月7日朝8時の時点であなたはどこにいましたか？
○自宅内　○指定避難所（岡田小学校）
○指定避難所（薗小学校）　○指定避難所（その他）
5親戚・知人宅　6浸水域外の高台（例：吉備路クリーンセンターなど）
7その他[　　]

2）次に避難するとしたら、同じ行動をとりますか？
1同じ場所に避難する　2別の場所に避難する　3自宅に留まる
4その他[　　]

2）－1　その理由について教えてください。
[　　]

3. ここからは、あたまの体操としてお答えください。

もし、今警戒レベル3（避難準備・高齢者避難開始情報）が発表されたとします。どこに避難しますか？例を参考にお答えください。
（コロナの影響もお考えください。）

設問1：**車（車中泊含め）で真備町内に避難**するとしたらどこに避難しますか？1か所以上の場所を具体的に記載してください。
（例：川辺小、岡田小、吉備路クリーンセンター、真備総合公園　等）

設問2：**車（車中泊含め）で真備町外に避難**するとしたらどこに避難しますか？1か所以上の場所を具体的に記載してください。
（例：総社方面の○○、玉島方面の△△　等）

設問3：**徒歩で避難**するしかない場合、どこに避難しますか
1か所以上の場所を具体的に記載してください。
（例：とんぼ公園、土手　等）

設問4：いま何らかの理由で**自分一人では避難できな**
誰とどこに避難しますか？1か所以上の場所を
してください。（例：家族ととんぼ公園、両親と土手

資料２）出水期を前にコロナ禍　啓発チラシ配布

大雨の季節を迎える前に 川辺かぞくミーティング

コロナが心配・・・ いまこそ安全な避難について 考えてみませんか？

もうすぐ大雨の季節がやってきます。川辺みらいミーティング実行委員会では、みんなで集まってお会いできないこの機会に、ぜひご家庭で避難について話し合っていただきたいと考えました。
そこで香川大学の磯打さんからアドバイスをうけて、避難のポイントについて整理してみました！ ぜひあたまの体操してみてくださいね。

第4回 川辺みらいミーティング実行委員長 松本竜己

これポイント！

安全な避難とは、文字通り「難を避けること」と考えてみましょう。

コロナウイルスの感染が心配な今、避難所はまさに「三密」ですし行くのは躊躇します。だからといって、コロナが心配で避難しないということになれば本末転倒です。
でもこう考えてみてはどうでしょう。
避難とは、文字通り「災難を避ける」ことを意味するようです（デジタル大辞泉）。避難所に行くことが安全な避難ではないと考えてみると、選択肢が広がりそうですね。

これポイント！

色々な場面や可能性を想定して、「マイ避難先」を考えてみましょう。

避難するとしたら真備町内？町外？車は使える？
総社方面なら？倉敷や玉島方面なら？

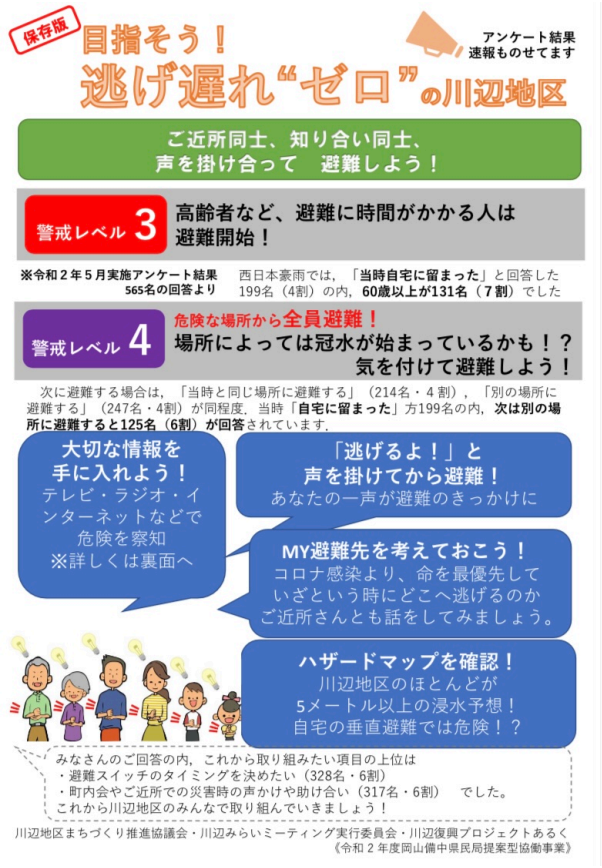
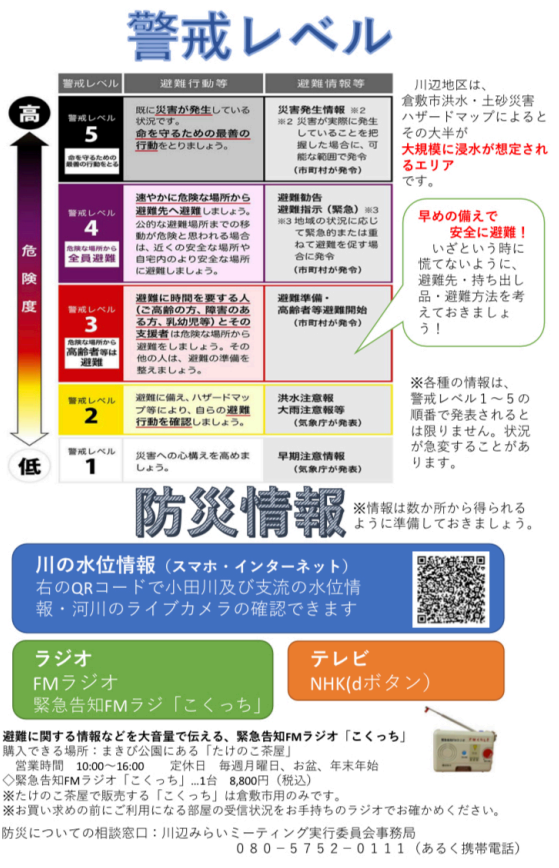
あ、車中泊なら？

指定避難所以外で避難できそうな場所を複数考えてみませんか？

「難を避ける」「三密を避ける」ために自分自身の「マイ避難所」を考えておくだけでも安心。ぜひご家族で話し合ってみてください。

お問い合わせ：川辺みらいミーティング実行委員会
事務局・川辺復興プロジェクト あるく（080-5752-0111）

資料３）　防災啓発チラシ

令和２年度の開始時には、コロナ感染拡大を懸念して活動ができない状態であった。

しかし、出水期を前に伝えなければならないことをまとめて、啓発チラシとして配布した。